

漢詩

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを

送る」李白

故人西のかた 黄鶴楼を辞し

煙花三月揚州に下る

弧帆の遠影 碧空に尽き

唯だ見る 長江の天際に流るるを

*唐の李白(七〇一〜七六二)の七言絶句。

つと はくていじょう はつ
「早に白帝城を発す」

り はく
李白

あした じ はくていさいうん かん
朝に辞す白帝彩雲の間

せんり こうりよういちじつ かえ
千里の江陵一日にして還る

りようがん えんせいな とど
兩岸の猿声啼いて住まらず

けいしゆうすで す ばんちよう やま
輕舟已に過ぐ万重の山

しちごんぜっく
*七言絶句。

涼州詞 王翰

ぶどう びしゆ やこう さかづき
葡萄の美酒 夜光の杯

の ほつ びわばじょう うなが
飲まんと欲すれば琵琶馬上に催す

よ さじょう ふ きみわら なか
酔うて沙場に臥す 君笑うこと莫れ

こらいせいせんいくにん かえ
古来征戦幾人か回る

*王翰 (六八七〜七二六) 七言絶句。
しちごんぜっく

【参考資料】

- 『声に出してよむ漢詩の名作50』 莊魯迅／著 (平凡社)
『中國詩人選集 7 李白 上』 (岩波書店)
『中国名詩選 中』 松枝茂夫／編 (岩波文庫)